

品川区区民保養所のあり方検討会 報告書【概要】

あり方検討会の結論 (報告書P21)

- 品川荘、光林荘の区民保養所としての活用は廃止すべき。
- 品川荘は施設譲渡を検討すべき。
なお、区民アンケートにおいて保養事業の存続を望む声があったことを踏まえ、今後の公共サービスとしての保養事業のあり方について、区民とともに検討すること。
- 光林荘は品川区の教育ビジョンに沿った校外学習施設として利用すべき。一方、施設存続にあたり、ランニングコストの削減に努めるべき。なお、社会・地域教育への活用については、今後の検討課題である。
- 区民保養所の廃止により不要となる財源は、真に必要な施策に有効活用すべき。

1 検討経過 (報告書P1)

令和7年7月2日	第1回あり方検討会
7月29日	区民アンケート (8月31日まで)
8月5日	光林荘視察
8月6日	サウンディング調査 (8月8日まで)
8月28日	品川荘視察

2 検討会の主な意見 (報告書P2)

- ・区民保養所だけでなく区の事業全体での優先順位を考えるべき。
- ・保養事業は見直す段階にきている。
(品川荘) ・公共でなければならないのか。
・区がやっているから成り立っているだけ。
- (光林荘) ・校外学習施設は行政としてやっていかなければならない。

3 費用対効果の検証 (報告書P5)

今後の想定必要経費で比較

A 区民保養所は廃止【255,385千円】

(ランニングコスト255,385千円/年)

B 区民保養所は廃止、光林荘は校外学習施設として継続【1,884,704千円】

(ランニングコスト226,455千円/年 イニシャルコスト1,658,249千円)

C 区民保養所として継続【2,847,338千円】

(ランニングコスト205,289千円/年 イニシャルコスト2,642,049千円)

4 サウンディング調査 (報告書P7～8)

(共通) 設備の劣化分を減額した入札でないと厳しい。

(品川荘) 体験型コンテンツによる集客
ルームチャージ等、客室の単価増が必要

	A社	B社	C社	D社
宿泊施設としてのポテンシャル	○	○	○	○
売却とした場合の入札参加可能性	×	△	○	○

(光林荘) 移動教室等を主とした活用
学校利用でハイシーズンを取られるのは厳しい。

	A社	B社	C社	D社
校外学習施設との併用	○	○	—	×
売却とした場合の入札参加可能性	×	△	—	△

※「△」…条件付き参加、「—」…回答なし

5 区民アンケート (報告書P9～11)

実施期間：7月29日～8月31日 回答数：387件

主な結果：区民保養所は今後必要か？

必要215 不要115 どちらともいえない46

自由意見：(存続) 物価高の今、安定した価格。現状維持を。
利用料金を少し上げてでも存続してほしい。
区民の保養施設は出来るだけ残すべき
(廃止) 生活に必須でなく税を投入すべきでない。
学習以外の目的でサービス施設を維持する
必要はない。
特定層に偏ったサービス提供はよくない。

6 特別区の状況 (報告書P12～13)

○他区(8区)の区民保養所における区民利用割合
最も低い利用割合 20.9% 最も高い利用割合 82.9%

7 校外学習施設の必要性 (報告書P14～18)

○教育的意義 ・豊かな自然体験活動 + 多様な世界遺産(文化遺産)
→ 区の掲げる教育ビジョンに適合

○費用面 ・光林荘活用337,005千円 民間施設利用255,385千円
→ 民間施設を利用するほうが現在の試算では費用は少なく済むものの、今後の民間宿泊施設のインバウンド需要の影響なども踏まえ、適宜試算が必要である。

○光林荘で校外学習を行う利点
・キャンプ場や体育館等の教育活動用の設備が充実
・民間宿泊施設にはない独自の価値(すべての児童が体験活動を通して主体的に学ぶ環境を提供できる)
・同様の機会を光林荘以外の場所で確保しようとすると、校外学習を企画運営する教員の労力や時間的拘束といった負担は格段に増えることが考えられる。
・教員の負担を減らし、慣れた光林荘で、教育の経験を積んでいくことが、円滑かつ充実した校外学習の機会を児童に提供することになる

⇒保養所事業の廃止後も教育施設として利用を継続することが望ましい。

8 見直しに向けた検討 (報告書P19～20)

- 品川荘の利用状況・分析
利用人数は減少傾向
区民全体での利用人数は少ない(R5:1.56%)
- 光林荘の利用状況・分析
団体以外受入停止、一般利用者は大幅減
- 区民保養所を取り巻く状況
旅行市場は成熟、現在でも事業者の創意工夫での運営
- 施設の老朽化と区の財政負担の状況
維持管理経費の負担、今後の大規模改修費用の負担